

## イチゴの病害虫の発生状況（1月上旬）

### 1 うどんこ病

発生ほ場割合は平年並でした（図1）。厳寒期は施設を閉めきることが多く、湿度が上昇するため、発生しやすくなります。まん延すると防除が困難になるので、発生初期から防除を徹底してください。

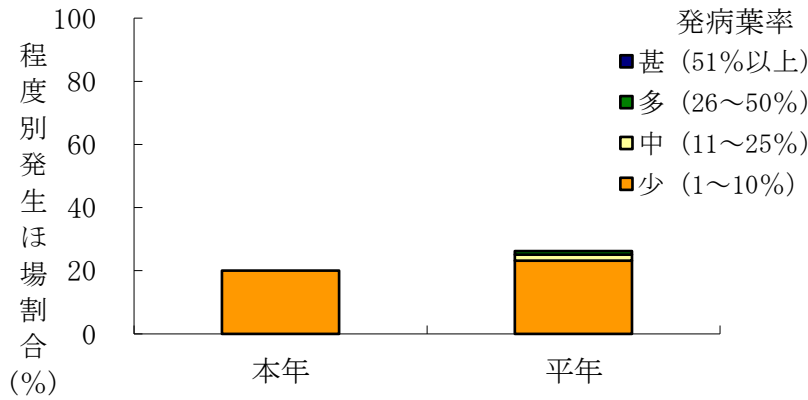


図1 うどんこ病の発生状況

### 2 灰色かび病

巡回調査において発生は確認されませんでした（図3）が、果実で発生が確認されています。本病害は湿度が高いと発病しやすくなります。厳寒期は施設を閉めきることが多く、湿度が上昇するため、発生しやすくなります。り病した果実や茎葉、果梗はほ場外に持ち出して処分してください。

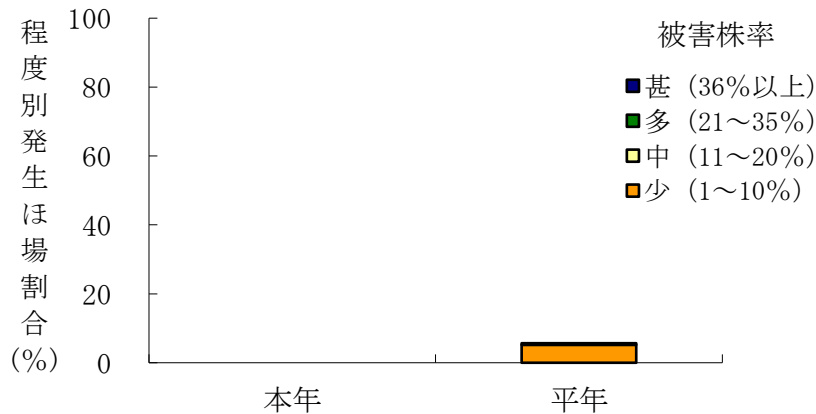


図2 灰色かび病の発生状況

### 3 アブラムシ類

発生ほ場割合は平年並でした（図3）。主な寄生種はワタアブラムシとイチゴケナガアブラムシでした。一部のほ場で果梗への寄生が確認されています。寄生密度が高くなると、すす病による果実汚れが生じるので、発生を確認したら防除を実施してください。

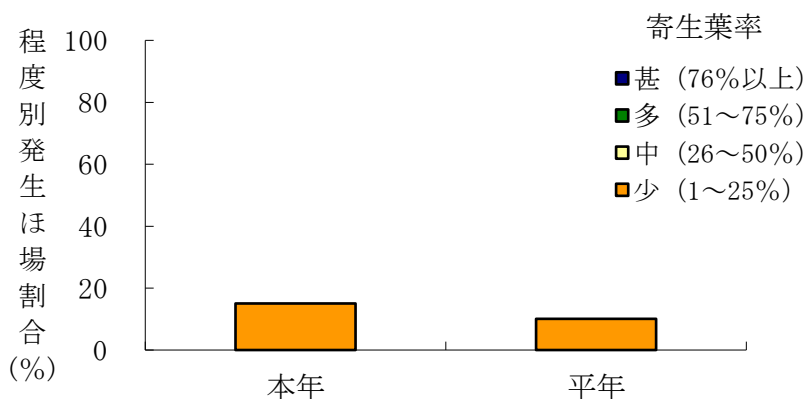


図3 アブラムシ類の発生状況

#### 4 ハダニ類

発生ほ場割合は平年並でした（図4）。早期発見に努め、低密度時から防除を実施してください（令和3年10月12日付け防除情報参照）。

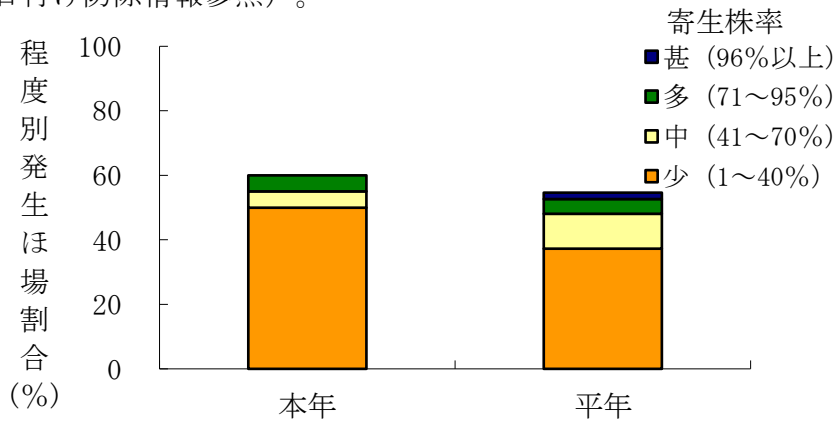


図4 ハダニ類の発生状況

#### 5 コナジラミ類

発生ほ場割合は平年並でした（図5）。密度が高くなるとすす病発生の原因となるので、低密度時から防除を実施してください。

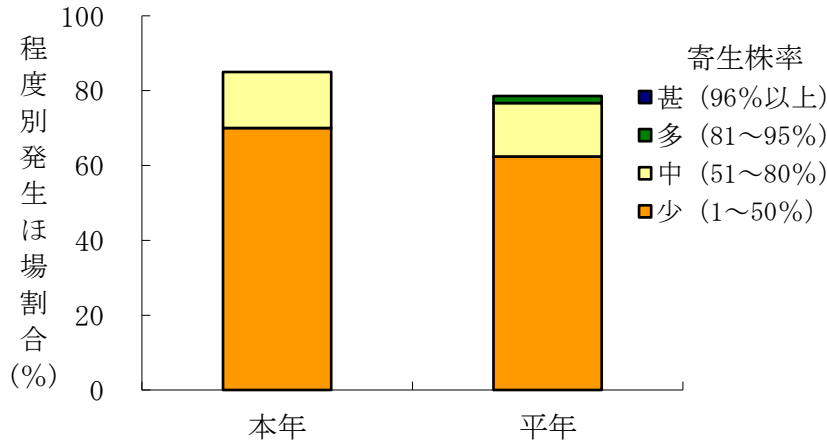


図5 コナジラミ類の発生状況

#### 6 アザミウマ類

発生ほ場割合は平年並でした（図6）。寄生種はミカンキイロアザミウマでした。密度が高くなると被害果が発生します。開花中の花をよく観察して、寄生がみられる場合は低密度時から防除を実施してください。

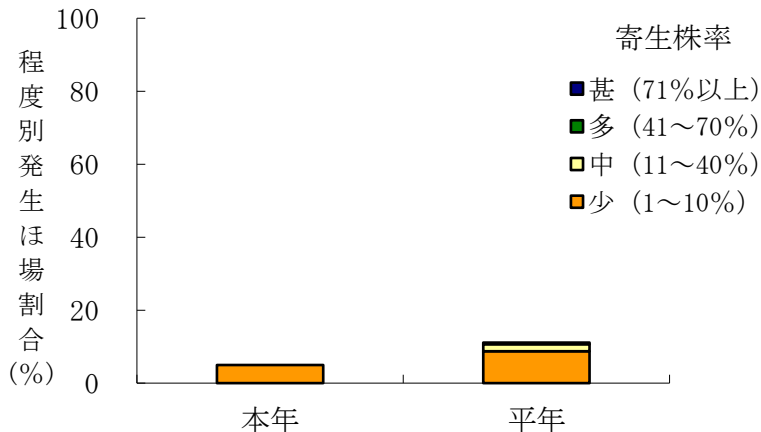


図7 アザミウマ類の発生状況

● 情報内容への質問や要望は、福島県病害虫防除所まで御連絡ください。